

# 上座と下座

3月3日の桃の節句は過ぎましたが、老人ホーム様に伺いますと2月から3月にかけて雛人形がよく飾ってあります。

その雛人形を飾る時、男雛と女雛はどちらの位置が正しいのだろうと悩むことがあります。この位置は、地域によって違いがあります。

京都と関西の一部では、男雛は左(向かって右側)、女雛は右(向かって左側)に並べます。関東ではその逆で、男雛は右(向かって左側)、女雛は左(向かって右側)に並べます。

日本の古くからのしきたりでは「左上右下(さじょううげ)」といい、当事者から見て左側(向かって右側)が上位、右側(向かって左側)が下位の「左上位」でした。

一方で西洋では、当事者から見て右側(向かって左側)が上位、左側(向かって右側)が下位の「右上位」です。こちらは国際間の付き合いのルール(国際儀礼=プロトコル)となり、外交などの国際舞台でも「右上位」がマナーとして定着しています。

雛人形の並びは、京都は古くからの日本のしきたりの「左上位」を重んじた並べ方を貫き、関東は西洋式の「右上位」を取り入れた並べ方となっています。

日本が古くからのしきたりを変えるきっかけとなったのは、皇室が明治時代になり諸外国の王族との交流が活発になり、西洋風の儀礼に接することが多くなり、外交上の判断から国際的儀礼の基準に揃える必要が生じてきたことからです。大正天皇が公式の場でこれまでと反対の右側(向かって左)の席に位置され、昭和天皇の即位の令でそれを踏襲されました。この時、即位の礼は初めて新聞に掲載され、東京の雛人形組合がそれまでとは逆の「右上位」の並びにし、広まったそうです。

結婚披露宴での新郎新婦の座席位置もこれに基づいています

左上位(向かって右が上位)

日本の古くからのしきたり

(京都・関西の一部の雛人形の並び)



右上位(向かって左が上位)

西洋のしきたり  
[国際儀礼=プロトコル]

(関東の雛人形の並び)



❖ここからは、「左上位」「右上位」の由来について紹介します。

◆日本の「左上右下」について紹介します。

中国の唐の時代の「天帝は北辰に座して南面す」(北辰とは北極星のこと)という思想に基づくとされています。天帝、すなわち帝の玉座は南に向かっておかれており、その左右に側近が座ることになります。帝の左側は「東」で、右側が「西」となり、太陽が昇る「東」が、日が沈む「西」よりも尊重され、その結果、「左大臣」が「右大臣」よりも格上となりました。ここから左が上位となったのです。

◆西洋の「右上位」について紹介します。

「Right」という英語は、「右」という意味に加えて、「正しい」「まっすぐ」などの意味があり、「右」は正義を示しています。

左(left)の語源は、「弱い」「価値のない」「身分の低い」などです。

またヒンドゥー教やイスラム教では「右」は清浄な手、「左」は不浄の手であると言われます。

このようなことから「右上位」が生まれたのです。

また、戦が頻繁に行われていた時代、当時の男性たちは花嫁を奪い合って獲得していたそうです。そのときに持っていたのが右手に剣、左手に盾。右手で剣を自由に使い相手と戦い、左手の盾で大切な花嫁を守っていたことから、男性が右、女性が左となったという話もあります。

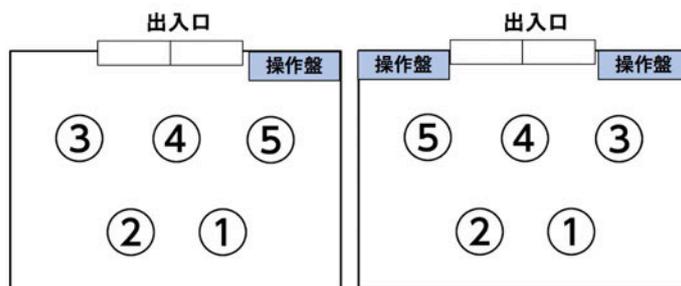
私たちが日頃利用するエレベータ等、西洋から入ってきたものは「右上位」に基づきます。お客様や上位の方と一緒に利用する場合は、上座は出入口に向かって右奥が上座となります。

オリンピックの表彰台で中央に金メダリスト、その右側(向かって左)に銀メダリスト、左側(向かって右)に銅メダリストが並ぶのも、右上位に由来しています。

## 〔右上位〕 エレベーターの上座・下座

入口から遠いところの右奥が上座、操作盤の前が下座

操作盤が2ヶ所の場合は、左の操作盤前が下座。



○の中の数字は、上位からの順番を示しています。

日本の古来からのしきたり「左上位」を守り続けているものもあります。  
着物を着る時は「右前に着る」と言いますが、右の襟を手前に、その上に左の襟を重ねます。自分から見ると左の襟が表側になります。

障子や襖も、障子・襖側から見て、手前が右、表側が左となります。

神社で手水を使う時は、左手から清めます。(洗います。)

まず右手に柄杓を持ち水を汲み左手を清め、柄杓を左手に持ち替え右手を清め、柄杓を右手に持ち替え左手のひらに水をうけ口をすすぎ、柄杓を立てて残った水が柄(もち手)に流れるようにして柄を清めます。

### 〔左上位〕

着物は「右手前」で着る  
自分からみて右の襟が手前、左の襟が表側  
相手から見ると、向かって右の襟が手前に見えます



### 〔左上位〕

襖は、襖側からみて  
右の襖が手前、左の襖が表側  
こちらから見ると、向かって右の襖が手前に見えます



日本には「左上位」と「右上位」の2つのマナーが存在することで煩わしいこともあります。両方のマナーを尊重しないといけない時には、「今日はプロトコル(国際儀礼)」でいきますと伝えて、「右上位」を進めるという方法もあります。

